

1. 前事業年度の事業報告（2025 年度）

NPO 法人トラストサルン釧路

トラストサルン釧路は、釧路湿原の生態系を保全するため、市民からの寄付で流域内に自然保護地をつくることを主目的とし、生態系の維持と回復、調査研究、普及啓発、提言などの活動をしています。

2024 年度は、寄贈により新たに大小 16 カ所の自然保護地を成立させ、市民参加行事、自然林再生活動など定款に定めた特定非営利活動を実施しました。また国立公園内と同等の生態系を持ちながら公園区域から除外されている南部の湿原に大規模な太陽光発電施設（メガソーラー）が建設され、更に多くの計画があることから、これまで関心の薄かった住民も巻き込んだ動きが出て、トラストサルン釧路の活動も注目を集めました。それもきっかけとなり、他団体の主催したイベントなどに参加する機会が増え、横のつながりの大切さを感じた年でした。

なお 2024 年度において、非営利活動以外の活動（収益事業）は行っていません。

1. ナショナルトラスト活動

2024 年度は、湿原内にメガソーラーの設置計画が目白押しと伝えられ、その対象地とされている国立公園区域外南部の市街化調整区域の湿原に、寄贈により 9 カ所合計 335,503 m²の保護地ができました。湿原の生態系に大きな影響を与える恐れのあるメガソーラー計画を一部でも抑止する形で保護地を確保したことは、大きな意味があります。また達古武沼畔の湿原に 2 カ所、阿寒川、オンネナイ川、遠矢川、別保川の水源となる山林にもそれぞれ大小の保護地を成立させました。

一方、保護地取得のために積み立てている湿原保護基金には、本年度は 83 件、2,843,797 円（前年度比 76%増）が寄せられました。メガソーラーの問題が注目されると同時に当会の活動も広く知られたことから、例年より多額の寄付を受けることができました。

2. 自然再生の取り組みと保護地の管理

湿原周辺の丘陵地での自然林再生のために、地元樹種の苗木づくりと植樹・育林を継続して行いました。春秋の市民参加行事に加え、会員等のボランティア作業により保護地内に 131 本の植樹、苗畑では苗木 500 本以上を管理し、植栽地での下草刈りや防鹿柵の修繕も行いました。「緑と水の森林ファンド事業」の支援を受けてエゾシカによる被食防除の器具（ツリーシェルター）を試しています。

また勝野記念育苗事業は、役員のボランティア作業により苗畑で苗木の管理を行いました。植林作業の遅れで伸び過ぎた苗も出る一方、多くの樹種で結実状態が良かったため、新たに多数の種子を播種できました。橋場植林事業も再開し、15 種類 149 本の植樹と小型防鹿ネットの点検と補修、新たに 2 基の設置も行いました。

資金援助を受けて進めてきた自然保護地マップが完成し、会員および関係者に配付しました。

3. 会の基盤づくり

会員や役員による入会勧誘、および各種行事の際にも勧誘を行なった結果と、メガソーラー問題にもなって当会の存在が広く知られたことから、正会員数は 201 名と増加（前年度比 12%増）に転じました。運営費への寄付は 51 件（額で前年度比 43%増）寄せられました。湿原を守る水源林再生の活動に関しては、次年度（2025 年度）の自然林再生活動のための助成金を獲得しました。

4. 広報・主張・啓発活動

2024 年度の市民参加行事は、春の湿原再生の森づくり、秋のどんぐり記念日、それと同時に保護地の視察会を開催し、それぞれ多数の一般市民および会員の参加を得ました。会員向けの会報『サルンだより』を3回発行しました。一般向けの『湿原の新聞』も発行し、会合等の機会があるたびに配布して会の活動を広報しました。インターネットのホームページでも会の活動を紹介し、YouTube チャンネルでは引き続き動画を用いて活動を紹介しています。

12 月に東京で開催されたナショナル・トラスト全国大会では当会のトラスト活動とその変遷について発表しました。釧路湿原自然再生協議会の本会議および「生態系評価ワーキンググループ」に湿原保全の立場で参加しました。マスコミが注目する南部湿原でのメガソーラー問題に関して、民放テレビや YouTube チャンネルからの取材を受けました。大学生の研究テーマとしても釧路湿原のことが取り上げられ、聞き取り3件に対応しました。

5. 他機関・団体との連携

メガソーラーの問題や淡水魚類の生息環境改善に取り組んでいる釧路自然保護協会と折にふれて連絡を取り合い、同協会の主催したメガソーラーを考えるシンポジウムにも協力・参加しました。富士フイルム B.I.(株)の職員組織「端数倶楽部」と森林再生で協力し、勉強会にも招かれました。長年にわたり森づくり活動に助成をいただいているコープさっぽろの「あすもりフォーラム」では、全道に向けて森林再生活動の発表をしました。鶴野支援学校高等部の野外学習にフィールドを提供し、案内と指導も行いました。

地元の市民団体「もっと釧路湿原」の主催する学習会に参加し、アースディ釧路、くしろエコ・フェアにも出展しました。野鳥の会釧路支部とは水鳥観察会を共催しました。ナショナル・トラスト全国大会では各地のトラスト団体や支援団体と交流できました。別海町の湿原を大切に思う会の学習会にも呼ばれました。

【ご寄付】

○企業・団体等より

(一財)未来 2016、山梨学院小学校けやきの会、(株)藤プリント、かのう歯科・小児歯科クリニック、(特非)釧路湿原やちの会、(特非)野生生物保全論研究会より⇒湿原保護基金へ

JA 釧路地区女性協議会、弁護士法人とかち平野、釧路鶴野支援学校、(株)藤プリント、かのう歯科・小児歯科クリニック、佐藤司法書士事務所、富士フイルム B.I.(株)端数倶楽部、サルン作業チームより⇒一般会計へ

○個人より

湿原保護基金へのご寄付を例年より多数いただいたほか、一般会計（運営費）への寄付は Yahoo! ネット募金も含めて多数の方々からいただきました。

【助成金等】

○コープさっぽろ未来の森づくり基金より 2025 年度の自然林再生活動に対する助成金 100,000 円を、2024 年度中に新たに受け入れました。

○森と緑の会緑化公募事業により緑化資材を購入し、2025 年度に助成金として受け取る予定です。

【表彰等】

○社会貢献支援財団より「社会貢献者表彰」を受けることが決まり、授賞式は2025年度の予定です。

2024 年度活動日誌（主なもの）

【2024】		話題提供	
4/26	勝野記念育苗事業開始（～11/5 延べ 30 日）	10/3	66 号トラスト地成立（受贈）
〃	橋場植林事業開始（小型防鹿ネットの設置と補修、苗木チェック、149 本の植樹。11/22 まで延べ 15 日）	10/4	鶴野支援学校の野外学習に協力
4/27	会員のボランティアによる一般緑化事業開始（～11/24、延べ 12 日）	10/5	富士フィルム BI 端数倶楽部の視察対応（湿原太陽光設備）、勉強会講師
5/9	HBC のメガソーラー問題現地取材に対応	10/6	どんぐり記念日 53 名参加、塘路保護地の視察会（アドベンチャートレッキング）
5/11	「もっと釧路湿原」学習会で、トラスト活動と南部湿原の保全について発表	10/7	67 号トラスト地成立（受贈）
5/12	第 1 回理事会（監査および総会提出議案）	10/18	68～70 号トラスト地成立（受贈）
5/22	定時監査	10/23	キラコタン岬の立ち木伐採について環境省からヒアリング
5/27	サルンだより 140 号発行	11/10	達古武沼水鳥観察会 16 名参加
5/26	湿原再生の森づくり 18 名参加。午後からは 16 号と 27 号自然保護地の視察	11/17	くしろエコ・フェア 2024 に出展
6/16	日本ナショナル・トラスト協会職員をメガソーラーの現地に案内	11/19	71 号トラスト地成立（受贈）
6/20	環境省湿原保護官との面談	11/20	72 号トラスト地成立（受贈）
6/23	2024 年度通常総会（釧路市まなぼっと。会場に 15 名、書面を含め 127 名が出席）	11/29	コープさっぽろ主催のあすもりフォーラムに参加し活動発表
6/26	60・61 号トラスト地成立（受贈）	12/7	ナショナル・トラスト全国大会に参加して当会の活動を報告。湿原のメガソーラー問題に関しても言及
7/1	62 号トラスト地成立（受贈）	【2025】	
7/4	ソーラー問題で国会議員を現地に案内	1/8	サルンだより 143 号発行
7/17	63 号トラスト地成立（受贈）	2/3	73 号トラスト地成立（受贈）
7/23	社会貢献賞候補となり同財団の確認取材に対応	2/6	メガソーラー問題で STV テレビ取材対応
7/28	YouTube 動画の取材対応（ソーラー問題）	3/2	別海町教育委員会と「別海の湿原を大切に思う会」との共催による谷地端会議に参加し当会の活動を報告
7/30	トラストサルン釧路自然保護地一覧の地図が完成し配付開始	3/3	74 号トラスト地成立（受贈）
8/7	64 号トラスト地成立（受贈）	コープさっぽろ未来の森づくり助成贈呈式および交流会に参加	
8/10	サルンだより 141 号発行	3/7	釧路湿原自然再生協議会に出席
9/3	65 号トラスト地成立（受贈）	3/13	メガソーラーの規制に関して釧路市議会議員との意見交換会に出席
9/15	湿原の新聞（サルンだより 142 号）発行	3/18	75 号トラスト地成立（受贈）
〃	2024 釧路アースディに出展		
9/23	シンポジウム「釧路湿原の開発と保護の歩みに学びこれからを考える」に参加し		